

4. 広報活動など

4.1 地域社会などへの情報発信・広報活動

4.1.1 研究所ホームページ

地震に関する新しい情報、研究成果など、身近な地震研究機関として地域への情報提供に努めている。



4.1.2 地域社会における地域防災スキル向上に向けた取り組み

1) 瑞浪市

2019年4月11日に瑞浪市役所部課長会議において、古本尚樹主任研究員が瑞浪市協働プロジェクト「自治体幹部職員における災害対応～目標管理型」をタイトルとして、研修を行った（副市長・各部長・各課長級クラス、約60名）。2018年に赴任してから、主に瑞浪市役所生活安全課やみずなみ防災会と連携して地域の防災能力強化に協働してきた一環で、今回市役所幹部職員に対する災害対応スキル向上を目指した研修を行った。

2) 岐阜県内自治体

古本尚樹主任研究員が、令和元年度本巣市総合防災訓練における職員向けの講演、タイトル「災害に備えて、自治体職員に学んでほしいその対応について～災害事例と共に」として、2019年8月25日に行った。本講演では、約200名の市職員を対象に行った。本講演では、阪神・淡路大震災や東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨等災害事例の画像、また当時の貴重な映像を多く加味し、被災者が起かれた環境の変化とニーズの違い、支援者である自治体職員がこれまでの災害で対応した内容と課題等を解説した。

3) 企業との協働

古本尚樹主任研究員が企業防災、とりわけ金融機関における職員そして組織の防災対策を構築し強化すべく、JA（農業協同組合）との協働を始めた。そのオープニングとして、2019年9月17日に陶都信用農業協同組合（JAとうと）土岐支店でタイトル「金融機

関の防災対策、業務継続計画について」として研修を行った。瑞浪市内の8支店長を対象にした。JAは全国組織であること、瑞浪市をはじめ東濃地区でも農業は主要な産業であり、その従事者の利用も多く、今後こうした農業従事者層への防災・減災に関する活動の場を広める可能性を秘めている。

4) 瑞浪市民向けの取り組み

古本尚樹主任研究員が2019年10月20日、瑞浪市日吉地区の日吉町文化祭（場所 日吉コミュニティセンター）で、タイトル「災害事例から学ぶ住民の防災対策」として、地域住民向けに講演を行った。これまで災害で農業地域が被災することが多い事例と分析をも提示した。

5) 他地域(県外)での取り組み

古本尚樹主任研究員が2019年11月20日～21日に札幌市生涯学習センター（通称ちえりあ）で、企業従事者向けタイトル「災害時における会社の危機管理」また市民向けで「冬場の大地震に備える」講演を行った。企業向けでは基本的なBCP（事業継続計画 Business Continuity Plan）の作り方に加え、北海道における内陸型地震の現状、断層に関する内容で解説を行った。また、市民向けに関しては札幌近郊における断層や北海道胆振東部地震での被災者をめぐる現状と課題、雪氷災害での備えを解説した。

2019年11月22日には令和元年篠路まちづくりセンター事業「冬の防災力向上研究会」として、札幌市北区篠路出張所や同市北区の篠路や茨戸地区を中心とする連合町内会の各町内会長や役員向け（約70名）にタイトル「北海道胆振東部地震を受け、厳冬期における地震に備え、家庭と町内会の防災・減災対策」として講演を行った。

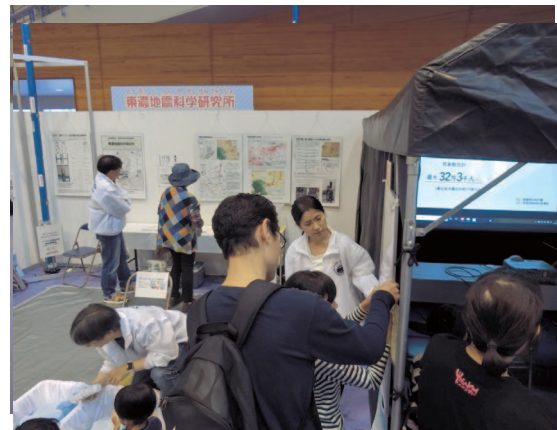
一方、京都府災害ボランティアセミナートップセミナー、タイトル「災害時における危機管理BCP（事業継続計画）を通じたセンター機能強化を目指して」として府内の各災害ボランティアセンター長級を集めて研修を行った。BCP（事業継続計画 Business Continuity Plan）に関する解説を1回目として2019年11月26日に行い、2020年1月23、24日にも継続して福知山市と京都市で各ワークショップを各1回（計3回）行い、各講師を務めた。

4.2 地元への広報とイベント参加

4.2.1 地元イベント(おもしろ科学館)への参加

経済産業省中部経済産業局主催、瑞浪市共催の「おもしろ科学館 2019in みずなみ」が、2019年10月26日・27日の2日間、瑞浪市民体育館にて開催された。

当研究所は「東濃地震科学研究所」のブースにて、「浮いたり、沈んだりする南極大陸」を展示した。また、簡易暗室内では地震防災に関するビデオやスライドショーを解説付きで上映した。他は、前年同様の観測機器・模型の展示・操作体験を実施した。



○浮いたり、沈んだりする南極大陸

南極大陸をかたどったスタイロフォームの下に、高反発スポンジおよび低反発マットを置いた2パターンの地殻（もしくはリソスフェア）模型を準備した。これらを手で上から押し込んで手を離すと、前者は直ちに持ち上がり、後者はゆっくりと持ち上がる。大地（岩石）には弾性（地震や積雪荷重による地殻変動）や粘性（褶曲や後氷期回復）という性質を有することの理解をねらいとした。



4.2.2「瑞浪市総合防災訓練」へのブース設置

災害時の自助・共助の意識向上を目的とした「瑞浪市総合防災訓練」（主催：瑞浪市，岐阜県）が、令和元年9月1日に市民公園いこいの広場で行われた。東濃地震科学研究所は、岐阜県の活断層を紹介するパネルおよび粘土模型と地震発生時の状況・行動を紹介するパネルを展示した。



4.2.3 新聞報道

2019年(平成31年)2月23日(土曜日) (第3種郵便物認可)

胆振東部地震の余震

胆振地方中東部を震源に最大震度6弱を観測した21日夜の地震。気象庁は昨年9月に起きた胆振東部地震の一連の地震活動とみて、注意を呼び掛けている。今後、どのような点に注意をすべきか、地震や被災地問題に詳しい東濃地震科学研究所(岐阜県瑞浪市)の古本尚樹主任研究員(50)に聞いた。

今回の地震について
昨年9月の胆振東部地震の余震とみている。東日本大震災や熊本地震の状況と照らし合わせても、胆振東部でも今後2、3年は最大震度5〜6弱程度の地震が頻発する可能性が極めて高い。

今後注意すべき点は
融雪時期は地盤が緩み、少しの揺れでも土砂崩れが発生しやすい。前回の地震で土砂崩れに見舞われた地域では、今も危機的状況が継続していると考えるべきだ。また、昨年9月の地震で損壊した部分の修復が終わっていない家屋も多いと思う。危険を感じる場合は無理せず、みなし仮設住宅に転居するなどの選択を。

今からできる備えは
今回と同程度の地震が今後も頻発すると考えると、各家庭では防災グッズを揃える必要がある。企業もBCP(事業継続計画)を早急に構築すべきでは。胆振東部3町では仮設住宅を含めた防災訓練を行うなどし、高齢者など弱者対策も進めるべきだ。

行政は弱者対策を

今後1、2年 震度5〜6発生の可能性も

苦小牧民放 2019 年 2 月 23 日

避難時危険、事前把握を

瑞浪市民防災講演会

瑞浪市民防災講演会 地震が発生した地割が12日、同市土岐町の市総合文化センターで開かれ、東濃地震科学研究所主任研究員の古本尚樹さんが、「平成30年北海道胆振東部地震を踏まえた地域総合防災のあり方」と題して講演した。

講演会は同研究所が年1回開催し、同市とみずなみ防災会の後援。古本さんは北海道出身で昨年4月に同研究所に赴任した。

古本さんは胆振東部

「自分が住んでいる場所の情報を事前に得ておくことが大切」と話す古本尚樹さん。瑞浪市土岐町、市総合文化センター

瑞浪市民防災講演会 地震が発生した地割が12日、同市土岐町の市総合文化センターで開かれ、東濃地震科学研究所主任研究員の古本尚樹さんが、「平成30年北海道胆振東部地震を踏まえた地域総合防災のあり方」と題して講演した。予想を超えた災害が近年相次いでいることに触れ、防災に関心がある人たちが引く張って、周りの市民の防災意識を高めてもらいたい」と訴えた。

(山本貴史)

岐阜新聞 2019 年 3 月 14 日

千葉日報 2019 年 9 月 17 日

京都新聞 2019 年 11 月 27
日